

指定管理者制度活用事業 年度評価シート

1. 基本事項

施設名称	王禅寺四ツ田緑地	評価対象年度	令和7年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人国際自然大学校 ・代表者名 理事長 佐藤 初雄 ・住所 東京都狛江市岩戸北4丁目17番11号	評価者	グリーンコミュニティ推進室 保全緑地・協働推進担当課長
指定期間	令和6年4月1日～令和11年3月31日	所管課	建設緑政局グリーンコミュニティ推進室

2. 事業実績

利用実績	令和7年度 【王禅寺四ツ田緑地】 ○年間延べ利用者数3,934人 〔一般開放630人(土日祝540人、平日90人)、団体予約利用1,679人、四ツ田整備隊49人、主催事業1,576人〕 ○年間延べ利用日数150日 〔一般開放63日(土日祝48日、平日15日)、団体予約利用59日、四ツ田整備隊11日、主催事業17日〕 【その他の緑地・公園等における利活用事業】 ○参加者数 延べ約300人 ・川崎区(伊勢町第1公園) 71人 ・幸区(幸町公園) 次年度に延期(打合せ、現地確認のみ) ・中原区(井田長瀬緑地) 39人 ・高津区(久末小学校、久末小貝谷特別緑地保全地区) 約100人 ・宮前区(南野川特別緑地保全地区) 28人 ・多摩区(生田東五反田特別緑地保全地区) 29人 《参考》 令和6年度 【王禅寺四ツ田緑地】 ○年間延べ利用者数4,107人 〔一般開放828人(土日祝781人、平日47人)、団体予約利用2,164人、四ツ田整備隊111人、主催事業1,004人〕 ○年間延べ利用日数152日 〔一般開放64日(土日祝50日、平日14日)、団体予約利用62日、四ツ田整備隊16日、主催事業10日〕 【その他の緑地・公園等における利活用事業】 ○参加者数 延べ約500人 ・川崎区(田島ふれあい公園) 約160人 ・幸区(御幸公園) 約80人 ・中原区(今井小学校) 約100人 ・高津区(久末小学校、久末小貝谷特別緑地保全地区) 約60人 ・宮前区(南野川特別緑地保全地区) 約100人 ・多摩区(東生田緑の保全地域) ※雨天中止
収支実績	令和7年度 ○収入 23,068,506円 (指定管理料収入 21,890,000円、その他収入 485,226円、自主事業収入 693,280円) ○支出 22,683,596円 (維持管理運営経費支出 22,310,517円、自主事業経費支出 373,079円) 【収支差額】384,910円 《参考》 令和6年度 ○収入 22,875,010円 (指定管理料収入 21,890,000円、その他収入 331,950円、自主事業収入 653,060円) ○支出 20,334,993円 (維持管理運営経費支出20,032,312円、自主事業経費支出 302,681円) 【収支差額】2,540,017円
サービス向上の取組	・指定管理2年目において、それまでの運營業務委託や指定管理業務における経験や専門性を活かし、また、職員研修において新たに子ども関連の研修を導入し、維持管理業務や利活用運營業務を滞りなく、適正に対応した。 ・広報については、ホームページのほか、インスタグラムやフェイスブック等のSNS媒体を活用し、定期的にイベントや現地の様子を伝えるなど、当緑地の魅力を積極的に発信した。また、小学校校長会の会議や市内イベント等に参加したり、図書館やこども文化センター、緑地施設等にチラシを配架してもらったりするなど、各種イベントや関係団体・施設等において、積極的に当緑地の広報活動を行った。加えて、個人的リピーターによる口コミや、これまでの関係団体との連携等を通じて当緑地の認知度の向上が図られた。 ・暑さ対策として、暑さ指数(WBGT値)計や持ち運びのできるミストシャワー等を設置したほか、また、終日日陰となり、豪雨時の緊急一時避難場所としても活用できる、かまぼこ型の竹ドームを新たに設置するなど、利用者の安全確保に努めた。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	1 利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	4	8
		2 利用者満足度は向上しているか			
		3 調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	4 事業実施による自己評価が適切に行われているか	8	3	4.8
		5 当初の事業目的を達成することができたか			
	(評価の理由) ・利用者アンケートにて、「広場、水道、トイレ等が非常にきれいに管理され、安心して利用できる」という声などをいただいております。日頃から施設をこまめに清掃することで、当緑地内において気持ちよく利用してもらうことができた。また、「普段体験できない自然環境がある」「広い広場があり、のびのびと遊ぶことができ、(火起こしや焚き火体験など)火を扱うことができる」など、普通の公園緑地ではできないことが当緑地ではできる点に評価を得ており、一般開放、団体利用ともに当緑地の魅力が広まりつつある。 ・「自然体験フェスタ」におけるアンケート結果では、「とても楽しかった」が76.2%、「満足」が22.7%で、概ね高評価であった。また、約6割が「初めて」の来場であり、新規に利用していただくことで、認知度を向上させることができた。(約2割は「2回目」、約1割は「3回目」の来場であった。) ・自主事業として実施した「里山かき氷」のキッチンカーによる販売は、暑さ対策としてだけでなく、四ツ田で採れた梅や赤しそをシロップにしたことで、利用者からとても好評であった。				
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	6 計画に基づく適正な支出が行われているか	9	4	7.2
		7 支出に見合う効果は得られているか			
		8 効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	9 計画通りの収入が得られているか	3	3	1.8
	適切な金銭管理・会計手続	10 事業収支に関して適正な会計処理が為されているか	4	3	2.4
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続について、計画に基づき、毎月の収支状況を本部担当者が精査するなど適正に行われた。 ・指定管理職員やボランティアの四ツ田整備隊が、ナラ枯れによる樹木や竹の伐採、倒木によるトイレの破損修理等を業者委託ではなく自前で、利用者にとって不便とならないよう滞りなく処理することで、業務委託費(樹木剪定委託費)や修繕費の経費を節減することができた。 ・樹木診断を行うことにより、維持管理の優先順位及び予防的対策を行うことができたことが、緑地の安全な利活用につながった。					

サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	11 提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	8	3	4.8
		12 サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		13 利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	業務改善によるサービス向上	14 実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	8	3	4.8
		15 業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		16 業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	17 利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	8	4	6.4
		18 意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		19 利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	自主事業の実施状況	20 施設利用者のサービス向上につながる自主事業を実施しているか	4	3	2.4
21施設利用者のニーズを踏まえた自主事業を実施しているか					
(評価の理由) ・一般開放において、利用者は緑地内の散歩や自然観察を、土日祝日には火おこしや焚き火、薪割り体験を行った。 ・団体予約利用においては、事前に活動内容や参加者の人数・年齢などを把握し、必ず保全活動(落ち葉掃きや薪割り、道路の泥かきなど)を行い、保全と利活用を組み合わせたプログラムを計画、実施することができた。 ・「自然体験フェスタ」の開催にあたり、他部署所管の「プレイグリーンパーク」を同時開催し、相互に積極的に広報することで、前年度よりも200人を上回る参加があった。運営に当たっては、日頃から当緑地を利用するボーイスカウトや有志団体がブースを出展したり、大学生のインターンをスタッフとして配置したりするなど、多様な団体や人を巻き込んで実施することができた。また、各区実施のわんぱくの森事業の宣伝については、近隣の麻生区小学校校長会のお借りして積極的に説明し、区内小学生全世帯に配布するなど積極的に広報することで、地元住民に四ツ田緑地を知ってもらうよい機会となった。また、当緑地は横浜市との市境に位置するが、横浜市の小学校を含め、チラシを配架させてもらうなど積極的に四ツ田緑地を広報した。 ・利用者のニーズに対して、その場で対応できることはすぐに対応し、その場で対応できないものについては、持ち帰り検討のうえ、次回以降のイベント等で反映させるなど柔軟に対応した。また、緑地開放日は利用者に積極的に声を掛けるよう、スタッフ間で徹底し、来園の目的や緑地への要望、不満点や苦情、今後期待することなど生の声を積極的に拾い、利用者のニーズ把握に努めた。 ・利用者以外の周辺住民や企業等からの苦情等についても、所管部署と速やかに情報共有を行い、対応策を検討し、迅速に対応した。 ・自主事業として、継続実施の自然観察会や染め物体験、キッチンカーによる「里山かき氷」の販売の他、新企画として「焚き火Cafe」を実施し、30名を超える参加者があった。					

組織管理体制	適正な人員配置	22必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	6	3	3.6
	連絡・連携体制	23定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	24再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	25業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3	1.2
	安全・安心への取組	26事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	4	3	2.4
		27緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス・個人情報	28個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	2	3	1.2
	職員の労働条件・労働環境	29スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	2	3	1.2
	環境負荷の軽減	30環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	2	3	1.2
(評価の理由) ・新たに、常勤職員(事業担当)を1名から2名に増員することで、その他の緑地等でのプログラム提案やイベントの企画運営を、四ツ田緑地開放日と並行して行うことができた。 ・月例・四半期報告等、定期的に対面・オンラインにて、適宜情報共有・意見交換を行った。また、事故・陳情等について、指定管理者からの対応及び報告があった。 ・常勤職員・非常勤職員全員を対象に、「安全管理研修」と称して緊急対応マニュアルの確認を行ったほか、ボーイスカウト等子どもたちを対象とする活動が多いため、新たに「森のようちえん研修会」や県主催講座「子どもの性暴力防止条例について」に職員に積極的に参加させた。 ・団体の利用申請等における個人情報の取扱いについて、適切な運用が行われるよう所管課と指定管理者との間で徹底した。					

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	31安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	4	4	3.2
	管理記録の整備・保管	32業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。	3	3	1.8
	清掃業務	33施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	3	4	2.4
	警備業務	34施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか	3	3	1.8
	植栽管理	35施設内及び外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか	4	4	3.2
	備品管理	36設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	3	3	1.8
	(評価の理由) ・敷地内の危険箇所、注意が必要な箇所の把握のため、ハザードマップを作成し、毎月敷地内を点検・報告するとともに、危険な箇所には立ち入り禁止看板を設置するなど、利用者に周知し、安全な利用環境を整えた。また、防犯カメラの故障の際には、自主的に修理、復旧を早急に行い、施設の安全管理に努めた。 ・利用者アンケートにて、「広場、水道、トイレ等が非常にきれいに管理され、安心して利用できる」という声をいただくなど、日頃から施設をこまめに清掃するとともに、倒木によるトイレ破損に際しては、速やかに自主的に施設を修理し、美観の向上と緑地を快適に利用できる環境を維持した。また、階段の設置や修繕、正門外のフェンスや歩道の草刈り等随時を行った。 ・指定管理職員やボランティアの四ツ田整備隊が利用者にとって不便とならないよう、ナラ枯れによる樹木や竹の伐採等について自前で迅速に滞りなく処理した。				

4. 総合評価

評価点合計	67.6	評価ランク	C
-------	------	-------	---

※評価ランクの適用基準

評価ランク	適用基準（評価点合計）
A	総合評価の結果、特に優れていると認められる。（80点以上）
B	総合評価の結果、優れていると認められる。（70点以上80点未満）
C	総合評価の結果、適正であると認められる。（60点以上70点未満） ※標準点
D	総合評価の結果、改善が必要であると認められる。（50点以上60点未満）
E	総合評価の結果、問題があり適切な措置を講じる必要がある。（50点未満）

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

・当緑地のありのままの自然を活かしながら、通常の公園緑地では体験できない薪割り体験や焚き火体験等の自然体験(学習)を実施したり、ボーイスカウトや大学生、障がい者団体等様々な団体のフィールドワークの場として活用していただき、また、日頃から積極的に利用者へ声掛けを行い、ニーズを汲み取りながら、当緑地の魅力を提供された。 ・広報については、ホームページをはじめ、インスタグラムやフェイスブックのSNS媒体を通じて、イベント情報や四ツ田緑地での取組状況等を随時掲載することと併せて、市内イベント出展や小学校校長会会議への参加の際のチラシ等紙媒体による宣伝、図書館やこども文化センター、緑地施設、子ども関連施設等へチラシ配架するなど、当緑地を積極的にPRした。 ・自主事業について、新規で四ツ田で採れた梅や赤しそをシロップにした「里山かき氷」をキッチンカーにより販売したり、「焚き火Cafe」では焚き火を楽しむをテーマに、個人や家族による多数の参加があり、それぞれの時間を楽しんでもらい好評であったり、利用者ニーズに合わせた自主事業が実施された。
--

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

・令和6年度、7年度の維持管理運営を通じて得たノウハウや課題等を適切に振り返り、今後のサービス向上に努めること。また、ニーズ把握のためにより効果的な利用者アンケートを実施するなど、多くの機会を通じて、利用者の声を収集し、寄せられた意見や要望等に対して改善を講ずることでリピーター増加につなげるなど、より質の高いサービスの提供に引き続き取り組むこと。 ・これまで同様、職員・ボランティア・利用者の安全管理を徹底するとともに、陳情・事故等への迅速な対応・報告の徹底に努めること。 ・広報について、ホームページやSNSと紙媒体を効果的に組み合わせるとともに、これまでの各種団体等の繋がり等も併せて活用していくこと。 ・ボランティアの四ツ田整備隊の活動メンバーが高齢化等で減少し、また、活動内容が専門的になっており、初心者の新規参入がなかなか見込めないため、既存の四ツ田整備隊と並行して、新たに楽しく参加できるような初歩的なボランティア活動を取り入れて、イベント等で参加者を募集し、取り込んでいくことを検討していくこと。 ・自主事業について、市場や利用者のニーズ等を調査・把握し、より多くの市民に来てもらえるよう、既存の自主事業の見直しを行うこと。
